

職場結果「仕事のストレス判定図」について

仕事のストレス判定図は、事業場全体、部や課、作業グループなどの集団を対象として仕事の心理的なストレス要因を評価し、それが従業員のストレスや健康リスクにどの程度影響を与えているかを判定できます。

仕事のストレス判定図は、2つの図からなります。

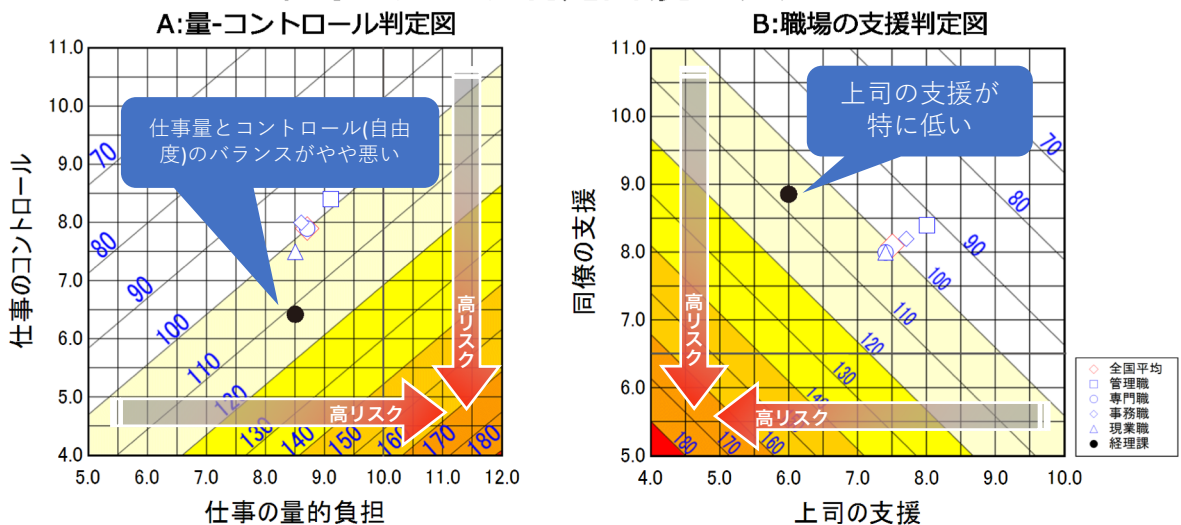
ひとつは、仕事の量的負担と仕事のコントロールをストレス要因として、それらから算出されたストレス度を健康リスクとしてプロットして表現した「量-コントロール判定図」、もうひとつは、同僚の支援と上司の支援から作成する「職場の支援判定図」です。

判定図上の斜めの線は、仕事のストレス要因から予想される疾病休業などの健康問題のリスクを標準集団の平均を100として表しているものです。従って、部署ごとに、仕事の量的負担、コントロール、上司からの支援、同僚からの支援の各々の平均点を求めれば、それぞれの部署の健康リスクが算出できます。例えば、ある部署の健康リスクが120の場合は、その部署において健康問題が起きるリスクが全国一般と比較して20%大きいと判断します。

平成14年～16年度 厚生労働科学研究費補助金労働安全衛生総合研究
 【職場環境等の改善によるメンタルヘルス対策に関する研究】主任研究者：東京医科大学衛生学公衆衛生学 下光輝一
 職業性ストレス簡易調査票を用いたストレスの現状把握のためのマニュアル
 より効果的な職場環境等の改善対策のために
<http://www.tmu-ph.ac/topics/pdf/manual2.pdf> より抜粋

職場結果(帳票：ひとつの職場)をご用意してご確認ください

仕事のストレス判定図(男女用)



職場名		経理課		男性人数	10	女性人数	10
尺度	全国平均	平均点数(前回比)	健康リスク(前回比) 全国平均=100とした場合				
量的負担	8.7	8.5 (+1.6)	量-コントロール判定図		総合健康リスク		
コントロール	7.9	6.4 (+2.1)	(A)	108 (-6)	(A) × (B) / 100		
上司の支援	7.5	6.0 (-2.8)	職場の支援判定図				
同僚の支援	8.1	8.8 (-0.9)	(B)	112 (+38)	121 (+27)		

赤文字は、前回よりリスクが高くなったもの
 黒文字は、前回よりリスクが低くなったもの
 この例の場合、今回は「コントロール」値のみ、リスクが低くなった結果となっている

この職場では仕事のコントロール(自由度)は改善されているが、上司の支援が悪化。職場のストレスが高まったことにより健康リスクが通常の20%増加と推定